

高取町の教育

平成26年度全国学力・学習状況調査から見える高取町の子ども

1. 調査の概要

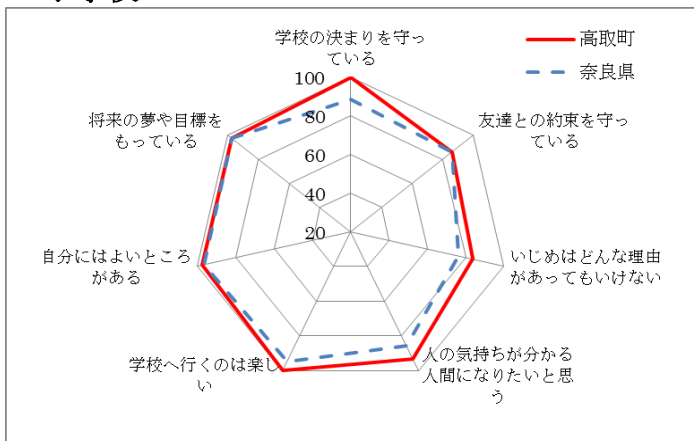
- 目的
 - ・児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、改善を図る。
 - ・本調査の結果を児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 実施日 平成26年4月22日 火曜日
- 調査対象 小学校6年生、中学校3年生の全児童生徒
- 調査内容
 - (1) 生活習慣や学習環境等に関する調査
 - (2) 教科に関する調査（国語、算数・数学）
 - 国語A、算数A・数学A：主に「知識」に関する問題（基礎的な知識・技能）
 - 国語B、算数B・数学B：主に「活用」に関する問題（思考力・判断力・表現力・その他能力）
- グラフの見方
 - ・グラフの数値は素点（テストのそのままの点数）ではなく、正答率（最高100%）です。
 - 赤のグラフが青のグラフより大きい ⇒ 高取町の成績が県平均を上回っている。
 - 赤のグラフが青のグラフより小さい ⇒ 高取町の成績が県平均を下回っている。

2. 調査結果の概要

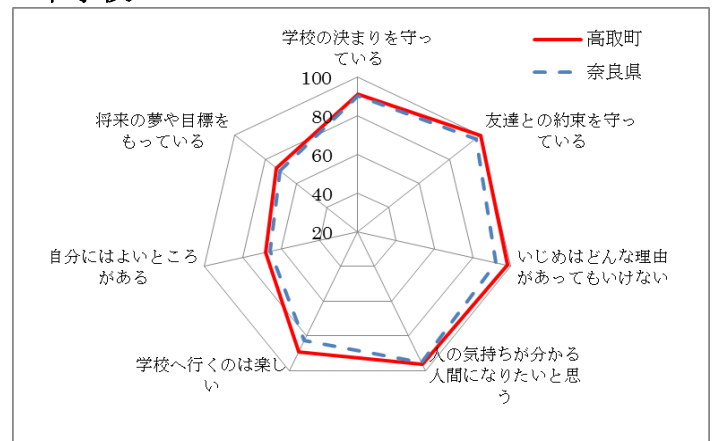
(1) 生活習慣や学習環境等に関する調査（抜粋）

【学校における教育活動の一側面です。】

小学校



中学校



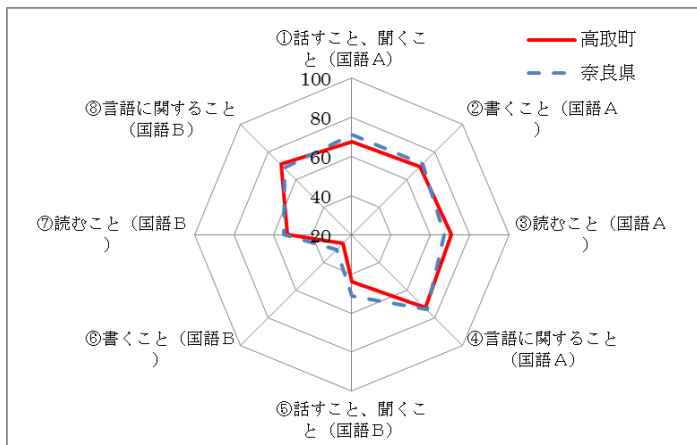
本町の児童生徒のすがた

- ◇小中学校とも「学校へ行くのが楽しい」「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」という項目が県平均を上回っていることから、健全な学校生活を過ごせる環境にあることが考えられます。
- ◇小学校においては、規範意識は県平均を大きく上回り、なかまを大切にする気持ちが強く、学校生活を充実したものにしようとする意欲的です。学習することは大切だと考え、学校では主体的に学習に取り組んでいる児童が多くいます。
- ◇中学校においては、友達との約束を守る項目については、全員が「守っている」と回答しています。県平均を上回り、友達を大切にしていることが考えられます。
- ◇中学校においては、自尊心や将来の夢についての項目が、県全体的に低い傾向にあります。自分の進路など現実に直面し、自分自身の良いところ・努力すべきところなどを1人1人が真剣に見つめはじめた結果であると考えられます。

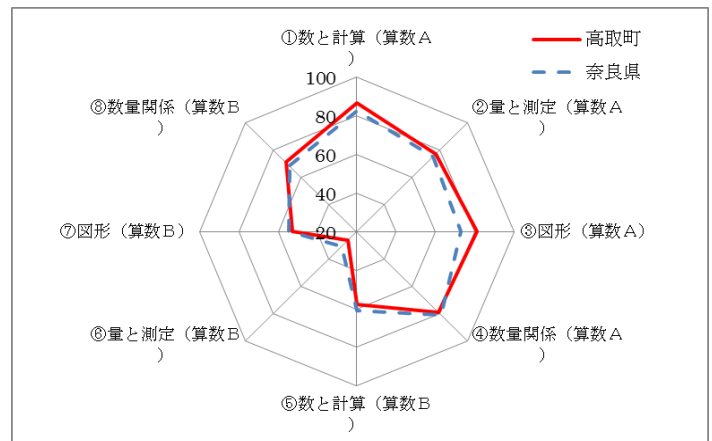
(2) 教科に関する調査結果（調査結果を学校種・教科別・領域別にまとめたもの）

【調査結果は学力の特定の一部です。】

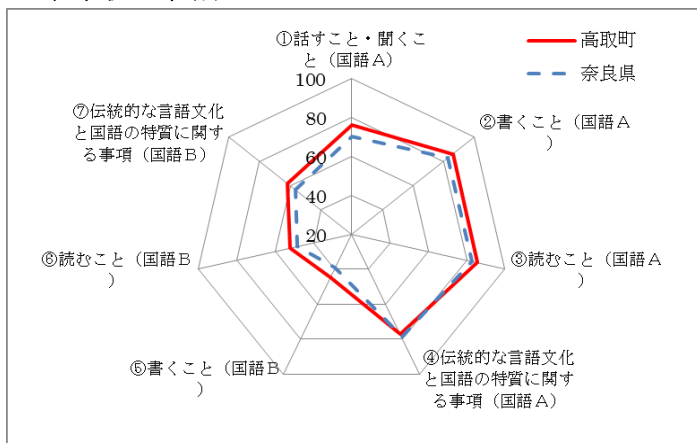
小学校 国語 A B



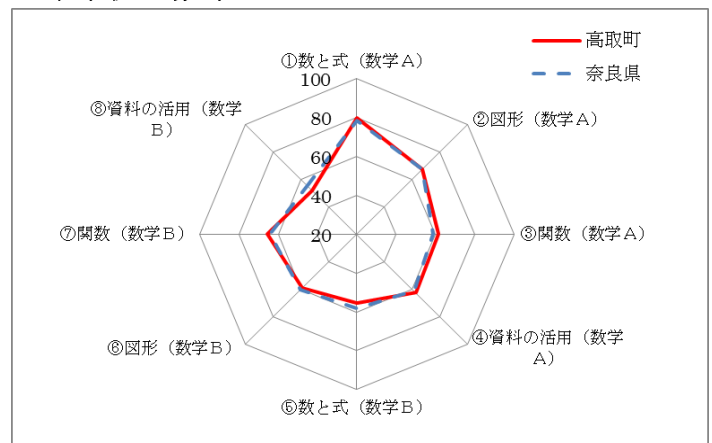
小学校 算数 A B



中学校 国語 A B



中学校 数学 A B



本町の児童生徒のすがた

- ◇小学校においては、国語は活用する力（特に話すこと聞くこと・書くことの領域）に課題が見られます。表現する力を高める取り組みを充実させる必要があります。
- ◇小学校においては、算数は概ね県平均と同様の傾向を示しています。基礎的基本的な知識技能は県平均を上回り良好ですが、活用する力に課題が見られます。
- ◇中学校においては、国語は県平均に比べ、概ね良好な結果が出ています。毎日の読書タイムの取り組みの成果であると考えられます。
- ◇中学校においては、基礎基本の問題である数学Aは全領域県平均を上回っています。一方、応用的論理的問題である数学Bは県平均をやや下回る傾向にあります。

3. 課題に対する改善方法

- ◎小学校では、子どもの学びと成長を保障するために、家庭との連携を大切にし、学校での学習状況を知らせる機会を増やすとともに家庭学習を進めてもらえるように努めます。
- ◎小学校では、基礎基本の力の定着のためにこれまで取り組んできている朝学習の充実を図ります。
- ◎中学校では、さらに家庭と連携を強め、子ども達の夢や希望が叶えられるような進路指導を行います。
- ◎小中学校ともに、パターン化された基礎的な問題には強いが、論理的応用的な問題にやや弱い傾向があります。基礎学力のより一層の充実と論理的に物事を考える力をつけることができるよう授業改善を図ります。